

令和6年度 国語科 授業改善推進プラン

大田区立東蒲中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・既習漢字の読み取り、書き取りが定着してきた。
- ・自分の考えや意見を表現しようとする意欲が見られるようになった。
- ・朝読書の推進により、不読率が低下した。

(2) 課題

- ・文法や言葉に関する知識の定着に課題が見られる。
- ・自分の考えを伝えるために、適切な言葉を選び表現することに課題が見られる。

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	令和6年度結果	令和5年度結果	令和4年度結果
第1学年	全体的に目標値を上回る結果であるが、インタビューの聞き取りと文法・語句に関する項目について、目標値をやや下回っている。		
第2学年	全体的に目標値を上回ったが、「我が国の言語文化に関する事項」「書くこと」は目標値を大きく下回っている。	(1)小学校で学習する漢字が定着していない。 (2)熟語の成り立ちについての知識が定着していない。	
第3学年	選択式の問題の正答率に比べ、記述問題への解答率が低い。説明的文章の、全体と部分の関係に注意して読む項目の正答率が低い。	話し合いの展開を理解し、互いの発言を結びつけて考えること、読み取った内容を明確に書くことが目標値より下回った。	話の内容を聞き取ること、話すこと、作文の正答率が目標値より下回った。

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
基本的な学力は定着していると考えられる。一方で、文法や語彙の知識では未定着と思われる内容も見られる。	説明的文章では、基本的な読み取り方が定着しており、正答率も高い。文学的文章では、表現の効果を正しく理解できていない。	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができていない。

② 第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書きといった基礎的な学力は向上してきた。しかし、古文の歴史的仮名遣いの未定着が多い。	説明的な文章では文章の構成や展開について根拠を明確にして読むことができている。しかし、文学的な文章では場面と描写を結び付けて読むことができていない生徒が多い。	話題や展開を捉えながら話し合い、互いの発言を結び付けて考えをまとめることに課題が見られる。

③ 第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書きについては正答率が向上している。用言の活用、歴史的仮名遣いの項目では目標値を下回っている。	自分の考えを分かりやすく伝えたり、自分の考えを文章で表現したりする項目について、目標値を下回っている。	論理の展開に注意して聞き、自分の考えをまとめることに課題が見られる。

3 授業改善のポイント（観点別）

（1）第1学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法や語彙に関する授業時には、小テストを頻繁に実施して定着を図る。	文学的文章を学習する時には、表現の工夫や効果について丁寧に解説し、定着を図る。	語彙力を向上させ、表現力を高める。 資料の読み取り方についても学習し、適切に情報を活用できるようにする。

（2）第2学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
漢字の読み書きは小テストを継続して行う。また、歴史的仮名遣いも小テストを実施し、定着を図る。	文学的文章を学習する時には、場面と描写を結び付けて読めるように指導事項を明確にして指導していく。	自分の考えをまとめる時間を毎授業に位置付けていく。書くことが苦手な生徒には、短文から長文へとスモールステップで指導していく。

（3）第3学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
文法の学習は復習を行い、知識の定着を図る。 古文の学習では、歴史的仮名遣いについての小テストを行う。	語彙力を高めるために、朝読書を引き続き推進していく。毎時間を文章書かせることで書くことに慣れさせる。その中で、意見と事実、理由と根拠等の書き分けを指導していく。	考えをまとめる力を育むために、考えをまとめる時間を毎授業設ける。また、話を聞く際にメモを取る習慣をつけさせ、話の要点を聞き取れるように指導する。